

官公需の減少と民需の競争激化、さらに建設業界を襲う原材料高

年々減少傾向にある官公需発注量、積算単価の値下がり、民間工事の競争激化など、建設業を取り巻く環境は年を追う毎に厳しくなっている。毎月寄せられる情報連絡員の声は悲鳴に近い。「昨年度末から工事の必需品であるコンパネが高騰し、1.8倍の価格」、「原油価格の高騰に伴い建築・建設材料全てが値上がりしており収益が悪化」（職別工事業）、「電線等が異常な高騰を続け、非常に採算が厳しい」（設備工事業）、「材料費の値上げ分を販売価格に転嫁できず、収益があがらない」（総合工事業）など、原材料高の影響も大きい。

建設業界の厳しさは関連する業界全てに波及しており、鉱業や窯業・土石製品製造業などでも、出荷量の減少や設備稼働度の低下、収益の悪化を訴えるコメントが多い。

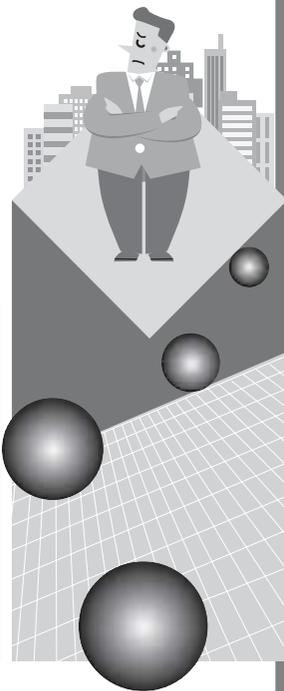
唯一、鉄骨加工については、首都圏の建築物件に関する発注が県内業者にまわってきていると明るいコメントがあるが、肝心な県内の大型物件で、鉄骨加工が「タイ」に発注されたとの報告もあり、今後の動きに注意が必要だと言う。

業界から一言

企業間格差拡大、独自の戦略に明暗

● 婚礼用食材の新規開拓効果もあり、売上高は前年同月比127%、但し、原材料高が続いており、採算は厳しい状況。（食料品製造、水産物加工）

大手菓子メーカーのOEM及び自社製品共に引き



▶ データから見た

業界の動き

山梨県中小企業団体中央会

情報連絡員報告
(平成18年9月分)

前年同月比の各業界のDI値は、売上高が10ポイント、収益状況が10ポイント、景況感も5ポイント回復、持ち直しの動きが続いている。

「非製造業」においては、収益状況が4ポイント改善したが、売上高が6ポイント悪化、景況感はず変わらず、厳しい状況が続いている。

個々のコメントから全体の景気状況をみると、企業間格差が拡大、さらに原材料や原油価格高騰に伴い、収益の確保が難しく、厳しい経済環境の中での競争が激化していることが伺える。

● 合いが回復しており、売上高の前年同月比104%。（食料品製造、洋菓子製造）

● 季節的に製品が動く時期であり、表面上は忙しいが、原油価格の高騰により原材料、輸送費等の上昇により収益が圧迫されている。受注量にも組合員間の格差が大きく景況感の動向を断定できない。（衣類・その他繊維製品製造業）

● メーカー・小売店の在庫調整のため、売れた商品のみが追加発注となっている。例年になく発注数量が少ない。原材料価格の上昇により販売価格もあがっており、各社の営業戦略によつて格差が生じている。（同上）

● 7月〜8月期の仕事量の少なさから比べれば回復傾向にある。しかし、資金

● 緑りが悪化している企業が多いように感じる。（印刷・同関連業）

● 難易度が高く取引条件の良い部品発注は好調、設備稼働度も上がっている。その他の部品は東南アジア（台湾、中国、タイなど）への流出が進んでいる。（金属製品製造業）

● 量販店が販売の中心となつているが、一部の地域店は対前年比100%を超えている成長を示した店もあり、組合員内で格差が大きくなっている。営業活動が大きく影響（機械器具小売業）

● 組合員内で売上格差が激しくなっている。小規模旅館は総じて悪い。中規模以上が設備投資を含めてサービスの上昇に努め、善戦している。

● 独自の特色を出したところ

● 傘の生地生産について、中国の急激な生産費上昇により、各社収益が10%悪化中国以外の生産地模索をはじめている。

● 原油価格の高騰により生地の仕上げを行う織物整理工賃が10月以降5%程度あがることから、9月期に駆け込み需要があった。（繊維工業）

● 主原料のバルブが値上が

● 材料費の値上げにより10月以降の商品の価格改定を進めているが、特売品や目玉商品の値上げができず、収益状況5%悪化。（食料品製造業）

● 原油価格の高騰に伴い、資材費や運賃等の影響があり、収益が3〜5%悪化。（飲料製造業）

● 金・プラチナ等の地金価格は依然として昨年度対比1.4倍と高い水準にあり、消費者は買い控えており、受注量の減少が続いている。

● ガソリン代金の価格上昇が営業活動に大きく影響している。（機械器具小売業）

● 10月には元売り価格が2年ぶりに大幅ダウン（4円程度）となるが、各SSは今まで経費増の価格転嫁が進んでいないことから引き下げ額は2円程度になると思われる。（石油製品小売業）

● 原油価格高騰に伴い、鋼材やマグネシウム及びアルミのインゴットなど、材料価格が上昇しており、収益が悪化（10%）している。（金属製品製造業）

